

國學院大學学術情報リポジトリ

編集後記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進センター メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2316

編集後記

本「紀要」第五号は、共存学特集として、「日本の伝統を活かした持続可能な地域社会を実現するための共存社会モデルの構築」を主な課題とする「共存学」に関する六本の論考と共に、神道・国学そして宗教関係の論考を併せ、合計十本の論考を掲載した。

巻頭に掲載した津田論文は、長州藩最初の招魂社創建に深く関わった白石正一郎が所蔵した神式葬祭書の『水戸侯御撰文自葬式論里民檄』を手掛かりに、招魂社信仰は、亡くなった人の魂は神霊そのものであるとの後期水戸学に顕著に示された霊魂観に、淵源するものであることを論証している。

佐藤論文は、明治・大正期発行の地方案内記における、靖國神社・護國神社の前身である招魂社の記事を蒐集紹介し、記事の特色と今後の課題について検討を試みている。

中野論文は、神道信仰の特質の一つである多神信仰の在り様をめぐって、国作りに於けるスサノオノミコトと大國主神との関係を、主に近世国学者の

言説に基づいて考察したものである。

共存学関係の論考の最初に据えた古沢論文は、生物種が大量絶滅する時代背景と世界の今後の動向について、生物多様性条約の意義とともに文化多様性につながる大きな時代趨勢について考察している。

野中論文は、最近大きな関心を集めている「水ビジネス」をめぐって、水ビジネス市場として取り上げられている中国の水環境について述べるとともに、水ビジネスのあり方を、水の循環、水と人との付き合いといった着眼点から分析している。

康論文は、日中両国間の経済構造的補完性、農産物貿易の推移と特徴、問題点などを明らかにした上で、日中農産物貿易の今後の在り方を展望している。

重村論文は、地域の資源を活用した様々な振興策があるなか、成果を上げるものは少ないとの現状を踏まえ、馬路村、上勝町といった町村に着目し、当該町村の具体的な事例から、地域振興の課題について考察を行なっている。冬月論文は、近年の経済発展に伴う

中国東北地方の様子を、できるだけ現地の諸相を紹介しつつ、考察も付け加えている。具体的には、経済発展・生物多様性・伝統文化・宗教施設復興といった視座に基づいた調査研究の報告である。

河原論文は、昭和二十年代からの里山荒廃の原因を、人と里山の共存関係の変化に求めて考察し、里山再生のための手段として新たな社会関係資本のあり方を提案している。

菅論文は、メルボルンの戦争記念施設に関する調査報告である。今後、英国文化圏の他の事例との比較や、近代国家と宗教性に関する考察の深化により、本格的な研究へと発展することが望まれる。

最後に、本センターの事業を遂行するにあたり、院友神職会をはじめとする神社界からの多大なご支援を賜っていることを、重ねて感謝申し上げます。

(中野)